



下関病院 〒759-6613 山口県下関市富任町6丁目18番18号 TEL：083-258-0338 FAX：083-259-8876

# 下関病院附属地域診療クリニック 開院のご挨拶



院長 末次 正知

平成24年8月1日に下関病院附属地域診療クリニックが開院しました。当クリニックの院長に就任しました、末次正知と申します。よろしくお願い申し上げます。

さて、精神科医療は今まさに大変革の真っただ中にあります。入院治療中心の時代から、患者さんが地域で生きていくことをいかにサポートできるかということに精神科医療の重点が移って来ています。急性期の治療では、下関病院において、多職種により総合的かつ濃厚な治療がなされ、入院期間の短縮が図られています。当クリニックには、デイナイトケア、重度認知症デイケアがあり、患者さんが地域で生きていく際に必要な、様々な技量の習得をサポートしています。また多職種で患者さん宅に出向く、「出向く医療」も充実させています。さらに、日中は当クリニックにおいて、夜間は下関病院において、24時間電話相談を受け、受診も断らない、「断らない医療」を今後も実践していきます。このように、我々スタッフ一同は、患者さんが、地域において、幸せで充実した生活を送るために、最大限のサポートを致します。

当クリニックは、細かい病変部位の描出が可能なMRI検査機器を有しています。MRI検査により、認知症の的確な鑑別診断や、血管病変や腫瘍などの早期発見が可能となります。また、当クリニックでは精神科医療に関して対応できない領域がないというのも大きな特徴の一つです。統合失調症、双極性障害やうつ病といった感情障害、器質性精神障害、不安障害、認知症、児童思春期の患者さんの治療ばかりでなく、てんかんや睡眠覚醒障害の検査治療にも対応しております。おそらく、県下でこれ程広範囲に渡り、多職種でアプローチできる医療機関は存在しないと思います。また、これまでも就労先を患者さんとともに探すことはしておりますが、今後本格的な就労支援も開始いたします。「入院から就労まで」全てをカバーすべく、今後も水の木会全体で突き進んでいく所存です。

スタッフ一同、全力で患者さんをサポート致します。お困りのことや疑問なことなどございましたら、どうか遠慮せずに我々にお声掛け下さい。

## 下関病院附属地域診療クリニック

〒759-6614 下関市梶栗町4丁目2番34号  
TEL：083-262-0832 FAX：083-262-0833

# 精神疾患の医療体制 ①

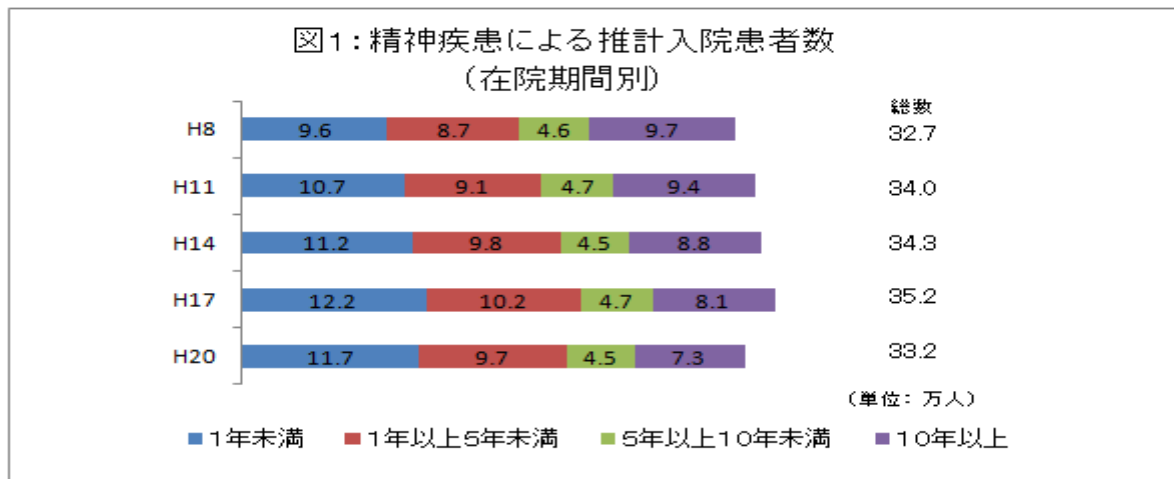
理事長 水木 泰

## 精神障害者の地域移行に向けての連携体制

平成16年9月に厚生労働省（厚労省）が示した「精神保健医療福祉の改革ビジョン」（以下改革ビジョン）では、国民意識の変革、精神医療体系の再編、地域生活支援体系の再編、精神保健医療福祉施策の基盤強化という柱が掲げられ、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方向性が示された。この改革ビジョンに基づき、今日まで様々な精神保健医療福祉施策が打ち出されてきた。しかし我が国の精神科における施策は、これまで入院中心に進められ、在宅での手厚い医療体制や、地域における生活支援の整備が遅れていた。

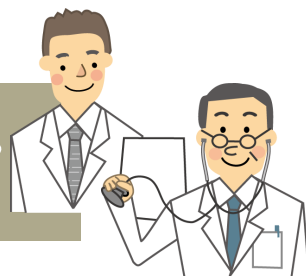
厚労省の統計によれば精神疾患による入院患者数は、平成20年の調査では約31.5万人で減少傾向にある。平均在院日数は313日で、平成元年からの20年間で約180日短縮されている。ところが精神疾患を理由に1年以上入院している患者数は21.5万人（総数の64.8%）で、このうち5年以上の入院患者数は11.8万人（総数の35.5%）となり、入院期間が長くなると地域移行がしにくい患者が多くなる（図1）。精神障害者の地域移行が困難な原因は、長期入院による弊害、患者自身の高齢化、身寄りがないこと、住むところが確保できないこと、支援体制が整わないこと、地域住民の偏見など多岐にわたる。

精神障害者の地域移行に対して、我々はどのように取り組むべきなのであろうか。前述したように精神障害者の地域移行が進まない理由としては、数多くのことが考えられる。しかし根本的な問題として、障害者が地域移行をしたり地域定着をしたりするための医療や福祉のプログラム数が絶対的に少ないこと、またそれらのプログラムの内容がどれも似たり依ったりで同じような内容のものが多く、さらにプログラムの基準が曖昧でどのような対象者を想定しているのか不明確であることなどが挙げられる。そこで精神障害者が病院を退院し、地域に定着して生活するためには何が必要となり、何が問題となるのかについて、我々が日常行っている下関病院での業務を通して検討すると同時に、具体的な提案をしたい。



厚生労働省患者調査

# 新任ドクターのご紹介



瀬谷 直明  
先生

はじめまして。  
平成24年7月から、内科の非常勤医として勤務しています。  
主に併設の施設を担当しています。  
還暦になりますのをきっかけに、勤務先を変わり、  
常勤から非常勤になりましたが、たまたま前の勤務先も精神科でした。  
どうも精神科の病院にご縁があるようです。  
宜しくお願い申し上げます。

## 学術講演会のご報告

### 下関精神科学術講演会

(2012年8月18日(土) 下関病院附属地域診療クリニック 3階研修室)

座長：医療法人水の木会 下関病院 理事長 水木 泰

特別講演：「統合失調症の古典概念から操作的診断へ、そして予防へ」  
国立大学法人 浜松医科大学 精神医学講座 教授 森 則夫 先生



森 則夫 先生

8月18日、下関病院附属地域診療クリニック3階研修室にて森 則夫先生（浜松医科大学精神医学講座教授）による「統合失調症の古典概念から操作的診断へ、そして予防へ」の講演がありました。

学生時代にならったクレペリンの早期痴呆、ブロイラーの4A、シュナイダーの一級症状からはじまり、現代精神医学のschizophreniaの概念はこの古典的な学説に因っていることを学びました。学生時代は非常に難しく感じた古典概念も臨床家となって改めて森先生の講演を聴講する機会を得て理解を深めることができました。

また、ARMS（精神病発症危険状態）についての森先生の解釈についても触れることができました。しかし、早期発見、予防の観点で更に注目されているのが、PETによる脳内のミクログリアの活性を調べるといった検査（最先端）だということも学びました。（統合失調症の危険群はミクログリアが活性しているケースが多い。）

森先生の聴講のあと、地域診療クリニックの1階食堂で活発な意見交換会も行われました。

下関病院附属地域診療クリニックでの初の講演会、森先生のような著名な先生の講演を聴講できる機会を得ることができ、皆とても生き生きしていました。精神科医療のために役立てていきたいとの思いを新たに、向学心がわいてくる貴重な時間でした。もっともっと勉強して下関病院の臨床レベルを上げ、学術的な裏づけのしっかりした医療を行っていく必要性を感じました。

医局 雨田 光代



# 行事報告 夏まつり

8月11日(土)、下関病院にて夏祭りを開催しました。当初は下関病院附属地域診療クリニック駐車場での開催を予定しておりましたが、悪天候が予想され場所の変更により足を運んでいただいた地域の皆様にはご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。結果的には小雨程度の雨しか降らず無事に開催することができました。

病院内のステージでは託児所のお子さんによるお遊戯が始まると思わず皆が笑顔になってしまいました。また、毎年参加して頂いている下関馬関連平家踊り保存会の方々の平家太鼓・三味線・唄により、輪になって楽しそうに平家踊りを行なう人々の姿がみられました。屋台に関してはどれも長蛇の列ができるほど賑わいをみせていました。

今後も地域の方々や患者様が楽しんで交流して頂ける行事として提供していただけるように職員一丸となり努力してまいります。

## ご協賛いただきました

- 株式会社 タカラ 様
- 西日本医療サービス株式会社 様
- 株式会社 岩多屋 様
- 栄食メディックス 株式会社 様
- 有限会社 ライフクリーニング 様
- 株式会社 大林組 様
- 株式会社 ハウズドクター 様
- 株式会社 友田組 様
- 有限会社 華企画 様

## 物品を貸していただきました

- 安岡小学校 様
  - コカコーラウエスト 株式会社 様
- 改めて御礼申し上げます。**



今回は、訪問看護  
有川 美恵子 看護師です。  
(ー)ノ

スタッフでつなげる、趣味のはなし。

### 連載 つなげよう! スタッフの



私の趣味についてお話しします。

30代の頃はソフトボールチームに入ったり、エアロビクスをしたりスポーツを楽しんでいましたが、現在は体力・気力の衰えを感じ、全くと言っていいほど運動をしていません。

今の趣味というか、私自身が癒されているのがガーデニングです。時間があれば庭に花を植えたり(雑草の方が多いのですが…)、ホームセンター等に行き、花や観葉植物を見て癒されています。変わった植物や見たことのない生け方、又、器を見つけるとワクワクして購入し、自己満足にひたっています。めまぐるしい日々の中で癒される時間、空間を大事に生活を楽しんでいけたらと考えています。

⇒ 次回は、高齢者デイ・ケア ぬくもり  
藤田作業療法士です。おたのしみに!

## 編 集 後 記

風の中に秋を少しずつ感じる季節になりました。当院も地域診療クリニックが完成し、新たな風の中、スタッフ一同頑張っています。

今号から「精神疾患の医療体制」の連載がスタートしました。今後の精神科医療、当院の方向性について書かれていますので是非ご覧頂ければと思います。

(広報委員 村上)